



小児科医・日本医師会副会長

さとし

かまやち敏先生

子どもたちの

健康な未来と

地域の医療を

守りたい



小児科医としての使命は子どもたちの健康やかな成長を親身に支えていくこと

私が小児科医を目指したのは、小児科開業医をしていた父の背中を見て育ったことと、恩師である小児科・植田 穰教授の臨床講義の迫力に強い感銘を受けたことが大きかったと思います。医師として、そして小児科医として最も大切にしてきたことは、子どもたちの健康と幸せを守り、彼らの健康やかな成長を支えることです。子どもたちはこの社会の未来を担う存在であり、彼らが健康で幸せに過ごすことは、社会全体の繁栄に直結すると考えています。診察室では、子どもたち自身だけでなく、そのご家族の抱え

る悩みや不安にも常に耳を傾けるような心がけています。それは、家庭や地域社会の問題が、子どもたちの健康や成長に影響を与えることがあるからです。小児科医の使命は、単に病気を治すことではなく、健康な未来を築くための基盤を作ることです。これこそが、子どもたちの未来、ひいてはこの国全体の未来を守る重要な役割だと思っています。

コロナ禍で見えた医師会の役割と課題

新型コロナウイルス感染症が拡大した際には、日本医師会の常任理事として感染症対策の最前線で活動してきました。新型コロナウイルス感染症についてまだまだ不明な点が多かった段階で、医師会からの情報発信を行うにあたっては、国民のみなさんの不安を煽らないこと、その時点で正確と判断された情報をわかりやすく迅速にお

伝えすることに努めました。

また、医療従事者が安心して治療に専念できる環境を整えるため、政府との連携を図りながら、誹謗中傷や風評被害をなるべく少なくし、発熱外来の拡充、ワクチン接種の迅速な実施、感染拡大防止のための指針の策定にも携わりました。こうした経験を通じ、より多くの方の理解と協力が最も大切であることを実感しています。

必要物資の備蓄、ワクチンや治療薬を国内で生産できる体制整備等、有事の医療提供体制を日頃から整えておくといった課題も明確になりました。今後、着実に改善していかなければならないと考えています。

地域医療が抱える問題と未来への取り組み

地域によって抱える課題はさまざまです。しかし、人口減少が急激に進み、地域の活力が

低下している中で、医療や介護をこれまで通り継続することは極めて困難です。

一方、医療や介護の仕組みのなるところで人は生活していけません。医療従事者の人手不足や、医療機関・介護施設の経営困難をどう克服するかなど、地域医療が抱える問題は深刻です。地域における合意を丁寧に形成しながら、地域に合ったやり方を模索しなければなりません。この取り組みに対して、国はどのような支援ができるのかを考えることが重要です。

さらに、地域ごとのニーズに応じた医療を提供するため、自治体や医療機関との緊密な連携を強化しています。地域医療は、その地域に暮らす人々の健康と安心を支える柱です。これを守り、支えることで、地域全体の豊かさや安全を確保し、さらには国全体の医療の質を向上させることができると信じています。

健康教育の充実を図りながら安心の医療・介護体制を

将来を担う子どもたちが健康で豊かな社会を築くためには、私たち大人が果たすべき役割が非常に大きいと感じています。特に、予防医療の重要性を子どもたちに伝え、彼らが自分自身の健康を守る力を育むことが大切です。健康教育を充実させることが、未来の社会にとって欠かせない基盤になると考えています。

同時に、少子高齢化が進行する日本において、医療と介護の連携が今後ますます重要になるでしょう。高齢者医療や介護の課題は深刻であり、これからの社会を支えるには、誰もが安心して医療と介護を受けられる体制を整えることが急務です。私は、医療と介護が持続可能な体制を築くために、全力で取り組んでいきたいと思っています。



かま やち さとし
釜 范 敏 先生

小児科医・日本医師会副会長

小泉小児科医院院長。1953年群馬県高崎市生まれ。1978年に日本医科大学を卒業後、小児科医として医療に従事。高崎市医師会、群馬県医師会の役員を経て、2014年から日本医師会の常任理事。2024年から副会長に就任。コロナ禍では政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会などの委員を務めるなど、医療分野に幅広く貢献している。



公式HP



LINE



Facebook



YouTube